



特集

# 福島製SLを 完成させた 貴重な技術



## 世界を視野に未来を拓く ～復興をけん引する福島の製造業～

福島市の製造業は、東北の市町村別製造品出荷額で見ると、第4位(平成23年経済センサス活動調査より)と上位に位置し、福島をけん引する重要な基幹産業となっています。市内佐倉下にある協三工業(株)も世界を視野に入れながら躍進し続ける企業の一つです。昨年、22年ぶりに取り組んだ蒸気機関車「6トンSL101号」が完成するまでの苦労や脈々と受け継がれていく技術についてご紹介します。



2013(平成25)年1月27日、1年がかりで完成した「6トンSL101号」のお披露目式。本物の汽笛を立てるための蒸気発生装置を大興奮

### OBにも協力を仰ぎ 22年ぶりにSLを製造

朗報が届いたのは、2011(平成23)年6月のことです。栃木県で鉄道車両の動態保存を手掛ける那珂川清流鉄道保存会から新たなSL製造の依頼が入ったのです。安齋京子さん(取締役総務部長)は「最初は戸

惑いしましたが、依頼には力強く走るSLを発注することで原発事故による風評被害で苦しむ福島を元気づけたいというお客さまからの願いが込められていました。若手技術者が弊社の基幹技術をしつかり受け継ぐチャンスにもなると思い、お引き受けしました」と当時のことを振り返ります。

翌年1月から製造が始まりました。「設計図は保管してあったので、心配はしませんでした。製造に取り掛かるとやはり一筋縄ではいきませんでしたね」。取り掛かる前にOBの技術者から「図面通りに作っても動かないよ」と言われていたことが現実のものとなって立ちふさがったのです。OBの技術を継承しながら来る日も来る日も試行錯誤を繰り返しました。熟練の技を痛感する日々でもありました。

1年がかりで完成したSLは、  
で、心配はしませんでした。製造に取り掛かるとやはり一筋縄ではいきませんでしたね」。取り掛かる前にOBの技術者から「図面通りに作っても動かないよ」と言われていたことが現実のものとなって立ちふさがったのです。OBの技術を継承しながら来る日も来る日も試行錯誤を繰り返しました。熟練の技を痛感する日々でもありました。

協三工業株式会社は、1940(昭和15)年の創業以来、蒸気機関車(SL)やディーゼル機関車、橋梁、水門、水管橋、各種クレーンなど多岐にわたる製品を送り出し、社会と産業の発展のために貢献してきました。なかでも創業の翌年から製造を始めたSLは、旅客や貨物、レジャー用まで計100台の実績を誇ります。現在、白い蒸気を吐きながら走る蒸気機関車を、昔ながらの技術で新規製造できる日本国内唯一のメーカーと言われる同社も近年は需要が減り、1991(平成3)年を最後に受注が途絶え、SL関連の仕事はメンテナンスのみとなっていました。

### 新規で蒸気機関車を 製造できる 国内唯一のメーカー



協三工業株式会社 取締役 総務部長 安齋 京子さん

▼運転室の内部には圧力計や調整バルブが並ぶ



▲真剣なまなざしでSLに命を吹き込む

※1 治具(じぐ)…加工や組立ての際、部品や工具の作業位置を指示したり誘導するために用いる器具の総称